武庫川の支流

名塩川とくらがり街道を歩く

第 123 回武庫川エコハイク

2017.7.8 エコグループ・武庫川

武庫川　全長 65km、流域面積 500km^2、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の７市１町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える２級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。2 級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第１０位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷で V 字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲山の隆起とともに武庫川に洗刻された先行河川である。ここに県営ダムを作る計画があったが豊かな自然環境を破壊するすることで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22（2010）年 10 月、ダムは検討に時間がかかることから、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

名塩川　武庫川の支流のひとつ。源流を赤坂峠付近に持ち、左岸から読売ゴルフ場を源流とする細野谷川、猪切谷川、右岸から西宮高原ゴルフ場を源流とする尼子谷川が合流する。六甲山北側の雨の多い気象条件の下。武庫川渓谷の最下端で本川に合流する。延長 6.2 km、流域面積 15.6ha（武庫川流域の約 3%）。流域は有馬層群の流紋岩質。

くらがり街道　西宮道、丹波道ともいい、丹波杜氏が西宮の酒作りに通った道。65 km道を、夜中に丹波を発ち、夜中に西宮に着いたという。これから「くらがり街道」と呼ばれるという。

生瀬駅　元阪鶴鉄道の有馬口駅。昔は有馬温泉への入口であった。明治 44（1911）年生瀬の駅弁屋淡路屋が武庫川の鮎を使った鮎寿司を売り出した。

生瀬宿　生瀬宿は、丹波・播磨と摂津を結ぶ交通の要地であったので江戸期早くから本宿場としてまた参勤交代の為の宿駅として栄えた。江戸時代の旅籠や茶店の名残りをとどめる妻入建築の家並みが見られたが、阪神淡路大震災で大きな被害を受け、現在は数軒が残るのみ。？

太多田川（おただがわ） と有馬街道　太多田川沿いに有馬街道が通っていた。この川沿いに有馬高槻構造線が走り、有馬への道は「四十八ヶ瀬」「四十八飛び」といわれる難所だった。

猿首岩（さるこうべいわ）と丹波街道　昔太多田川を越えると猿首岩の難所があり、川の瀬を通る二瀬川道と猿首岩の背後の琴鳴山を巻く猿首道があって、旅人は難儀をしていたが、宝来２（1705）年この岩を削り、川沿いに新道が開設された。

琴鳴山と赤子谷（伝承）　平安時代の話。京の左大臣萬里小路盛道公の子息が浅芽という美女と恋いにおち、許されぬまま有馬の地に暮らすうち男が病死し、母子は都に戻ろうと蓬莱峡の外れにきた時、今度は赤子が急死した。浅芽は近くの山の頂上で琴を弾き命を絶った。このころからこの地を通る旅人の耳に琴の音と赤子の泣き声が聞こえたという。今も琴鳴山、赤子谷の地名が残る。

木之元（このもと）地蔵　聖徳太子が一木から3体の地蔵尊を作られたという日本三体地蔵（近江国木の本、紀伊の木の本）の一つ。琴鳴山木元寺、西山浄土宗。天正年間（１６世紀後半）秀吉の三木城攻め兵火で寺は焼失したが、ご本尊は残った。火伏地蔵と呼ばれる。また赤松満政一族憤死の場所でもある。嘉吉の乱（1441）のあと山名持豊（後の山名宗全）に追われ、この地で自害したという。

リバーサイド住宅跡　平成 16 年 23 号台風の洪水で 83 戸床上浸水被害を受けた住宅地跡。

旧福知山線廃線跡　福知山線の複線電化にともない新線が建設され、武庫川渓谷に沿って走っていた旧線は昭和 61（1986）年廃止され、現在は武田尾駅までハイキング道に利用される。

名塩　地名の由来は定かでないが、15 世紀中頃の史書に当時「内塩」と呼ばれた地名があったり、地内に塩類泉があったという。この地が塩尾寺山内にある事から内塩と呼ばれたとか諸説が多い。

JR 西宮名塩駅　福知山線の新線建設にともない昭和 61（1986）年に開業した。この駅の開業に伴い名塩地区は旧住宅公団の名塩ニュータウンナシオンなど一気に開発が進んだ。

蘭学通り　国道 176 号線から別れた道は旧道。途中に名塩蘭学塾跡があり、命名された。

名塩蘭学塾　大阪緒方洪庵の適塾の塾頭伊藤慎蔵が文久 2（1862）年にこの地に開設した。ここは緒方洪庵夫人八重の生地であり、この地が選ばれた。現在、JA 名塩支店となっている。

名塩八幡神社　ご神体を山城国石清水八幡宮から迎えたと伝えられる。秋祭りの地車は賑やか。

名塩紙　名塩は和紙で栄えた。江戸中期から明治にかけて名塩千軒といわれるほど、殆んどの村人が和紙に関わったと言われている。現在は人間国宝谷野武信氏が間似合紙（まにあいし）の伝統を守っておられる。雁皮を原料とし、特殊な土を配合して変色しにくく、虫がつかない特徴がある。襖絵、書画用壁紙神社のお札に使われる。

名塩和紙学習館　西宮市立郷土資料館の分室。名塩和紙にまつわる様々な記録、図表、道具作品が展示されている。歴史と和紙づくりの工程を紹介したビデオと紙漉きの体験も出来る施設。

教行寺（きょうぎょうじ）　名塩御坊、中山教行寺。浄土真宗本願寺派。室町時代文明 7（1475）年蓮如上人が、この地を訪れ、草庵を設けられたのが創建。当時の名塩の集落は 24 軒だったという。その後信仰を集め、現在地に移築、名塩御坊と呼ばれ、名塩は寺内町の様相を呈した。境内に「お箸杉」があり、蓮如上人が土にさした箸が成長したという伝承がある。

紙祖東山弥右衛門　時代は戦国時代末期とか江戸時代初期といわれるが明確ではないが、名塩の人弥右衛門が越前に行き、製紙家の婿養子になり、製紙の技術を習得し、妻子を残し、名塩に帰り製紙の技術を広めたという。これにより名塩の和紙作りは大いに繁栄した。弥右衛門の妻子が弥右衛門を追って、名塩に来たが、村人が弥右衛門を引き止めるため、家族の再会を認めなかった為、妻は狂死したという秘話がある。これを作家水上勉が小説「名塩川」として発表した。また弥右衛門の顕彰碑は中山の山中にあり、毎年秋の彼岸に供養が続けられている。

名塩貯水池と名塩浄水場　細野谷川の支流シリツキ川の上流に名塩貯水池がある。丸山貯水池が完成するまではこの地区の水源であった。浄水場は 176 号線北側にある。

独鈷水（どっこすい）　有馬三名水の一つ。（有馬高塚清水（有馬温泉上流）、筒井の清水（神戸市北区長尾町上津）、の並ぶ名水で東久保赤松峠近くに現在も湧水がある。弘法大師の伝承があり、昔老人がこの地を通り、土地の人に水を求めたところ、この辺りは水が乏しくこれだけしかありませんと、貴重な水を差しだした。老人はこれを頂き持っていた独鈷を近くの土地に突き、引き抜くとそこからこんこんと清水が湧き出たという。この老人は弘法大師であったという伝承。今も近くの田地を潤している。

参考：（特活）こども環境活動支援協会「西宮の川を学ぶ」、角川書店「日本地名辞典」、名塩探

史会「名塩歴史散歩」、西宮市「わが町ぶらりマップにしのみや」、西宮市「語り部ノートにしのみや」